

創刊記念誌

守門
syumon

守口門真商工会議所婦人部

商工会議所婦人会の歌

野村若葉子 作詩
服部 良一 作曲

Moderato

mf



にほんのくにの まちまちの ふじんのちから かぐわしく



せいさんの あかりを まもり まもり ここにつどう



われら ぜんとあかるい しょうこうかい ぎ しょうじん か い

野村若葉子 作詩
服部 良一 作曲・編曲

一、日本の国の街々の
婦人の力 かぐわしく
生産の

燈りを守り 守り
ここに集う 我ら
前途明るい
商工会議所婦人会

二、世界に並ぶ国々に
婦人の力 かぎりなく
商(あきない)の
交りひろげ ひろげ
ここに進む 我ら
理想は高く
商工会議所婦人会

三、険(けわ)しい世にも助け合う
婦人の力 逞しく
新しい
人の和築き 築き
ここに唄う 我ら
心豊かな
商工会議所婦人会

創刊記念誌

守門
syumon

二都市が一つの商工会議所を持つ数少ない地域であり、両市の友好の象徴として頭文字を題字に戴きました。各企業の守り門を栄える事の願いをこめて……

守門（しゅもん）

目次

創刊に添えて

1

婦人部部長 梅谷 千恵子

守口門真商工会議所 会頭 大塚 甚蔵

守口門真商工会議所 専務理事 浅地 良一

婦人部副部長 岩阪 清子

例会委員会委員長 南野 多美子

事業委員会委員長 小西 弘子

広報委員会委員長 土井 美代子

婦人部のあゆみ

5

青少年期の思い出

9

守口門真商工会議所

常務理事 栗山 博文

事業委員会副委員長 片桐 節子

願望 創刊号によせて

11

広報委員会副委員長 高木 洋子

幹事・広報委員 近藤 多美子

「団塊の時代の子」

12

広報委員 山岡 真知子

例会委員会副委員長 上月 絢子

創刊に添えて

婦人部部长 梅谷千恵子

春夏秋冬を七度重ねて今、「守門」の発行に際し一言ご挨拶申し上げます。

過年当商工会議所にこの婦人会が設立発足されましたのは、初代小川会頭様が是非にとのご支援によるものでありました。それに伴ない部長の大任を仰せ付けられました。当時相談役としてお力添え載きました村上様の理知的多彩な配慮と造詣の深い谷本様御両氏のご協力を以って一年後には婦人部全国大会に臨む事になり、福山市へ参りました。其の時すでに二十五周年を迎えられたベテラン会議所もあり、二千名もの出席者で北は北海道、南は沖縄と大々的に参加され公私共に活発なる有職業女性の行動力等は実に目を見張るものがあり、此の時、初めて小川会頭様のご意志が分り我々の為に力と勇気をお与え下さった事に釈然とした思いがいたしました。会合の女性軍団に驚き、雰囲気の初体験にも感激致し乍ら、さて自分の足許をと考えますと余りにも微力であり不適格な事態がありありと見えて参ります。運営の東西が分からぬまま暗中模索と反省の年月が鮮明に流れて行きます。それからの数年事務局は勿論各委員の暖かきご協力を得ながら歩み続け、お互の年令差、異種事業と共に個人それぞれの考え方の相違も次第に調和し今日を迎えた様に現在は感じております。

発足当時(五十七年)商工会議所の「小さな親切運動」のスローガンに加え私の「なせば成る…」の真髓に徹して精進・努力をして参った様にも思います。日々のご不満も今日より明日にとお許し戴いた事でございましょう。此れひとえに大塚会頭様のご理解と商工会議所各位の偉大なる抱容力とご指導の賜と存じ深く感謝申し上げます。

この度本紙創刊に至りましたのはかねてよりの念願でありました広報委員会よりたつて発刊を望むと熱き要望があり、本年度初の例会に於て賛成同意にて決定致しました。

婦人部の歩みとして「守門」の題字を付け婦人部の行事、講習会、其の他身近にお知らせ致し、より多くの婦人経営者の参集を願い衆知を得、共鳴して戴きたく存じております。

今後重ね行く年輪は益々むづかしく社会的にも構造変革期を迎える時期であります。女性特有の粘りと脱落させぬソフト経営で頑張り抜く、我々のエネルギーとなり、お互い良き相談相手が「守門」であり増刊を重ね商工会議所全体の企業研鑽の学びを深め度く存じて居ります。企業経営の誇りと心安らく伴侶として婦人部発行「守門」に大いなる意表を感じて婦人部が益々発展する様何卒絶大なるご支援の程、宜敷くお願い申し上げます。

各位企業様の益々のご発展と会員皆様方の一層のご活躍を祈念申し上げます。

守口門真商工会議所

会頭 大塚 甚蔵

守口門真商工会議所婦人部の機関紙「守門」が発行されると聞き心から祝福申し上げる次第でございます。

当商工会議所に婦人部が誕生したのは七年前で、以来梅谷部長、岩阪副部長をはじめ役員の皆様、会員の皆様が相より助けあい活発な事業を展開され、商工会議所活動のひとつの活力となっておられますことに深く敬意を表し厚く御礼申し上げます。

部員の方々の中には、企業経営の衝に当られる方、又は事業専従者として内助の功に当られる方々いずれも、厳しい経済環境の中を生き抜かれた方々でございます。ひとつの企業の中にとじこもらずお互に経験を語り合い、経営の悩みを相談し合う中で新しい活動を見つけて出すことが婦人部の大きな働きかと存じます。

ソウルオリンピックの実情を見るまでもなく、最近の婦人の各界における進出活躍はまことに目ざましいものがあります。守口門真地区事業場の中で婦人経営者の力が企業躍進の大きな原動力となりますよう、またその中核が守口門真商工会議所婦人部でありますことを念願してやみません。

新しく創刊される「守門」がそういう意味におきまして部員皆様のよきコミュニケーションの場として大いに活用されますよう期待いたしましたく存じます。

守口門真商工会議所

専務理事 浅地 良一

婦人部機関紙「守門」創刊おめでとうございます。婦人部の皆様には商工会議所として日頃何かとお世話になり厚く御礼申し上げます。

当商工会議所は大阪府下では15番目に出来た商工会議所でありますが、婦人部は大阪商工会議所、泉大津商工会議所に次いで三番目に名乗りをあげた商工会議所であります。

これは当時の小川会頭の熱心な要請に応えられたもので、以来七年間、例会、講演会、見学会、交流会等に熱心な活動をつづけてこられました。これは梅谷部長を中心とする役員の方々の御努力と部員皆様の御協力の賜と存じ深く敬意を表する次第でございます。

このたびは機関紙「守門」を発行されることで、御担当の部員の方の御苦労は大変なものと存じますが、この「守門」が部員をつなぐ絆であり、部員一同のシンボルともなる重要なものでありますから、くじける事なく発刊の御努力をお願い申上げたたく存じます。

また、部員の皆様も、積極的に御意見や御要望を紙上に寄せられ「守門」を育てていただきたく存じます。守口門真商工会議所婦人部の益々の御隆盛を祈ってやみません。

婦人部副部長 岩 阪 清 子

守口門真商工会議所婦人部が発足致しまして、はや、七年。

時の流れの速さに、改めて驚くと共に、副部長の重任を戴きながら、今日迄の微力さに、ただただ心苦しく思っております。

想えば七年前、企業に携わる婦人の経営学習と、相互の親睦、又は、他地域の婦人部の方々との交流を通じて視野を広げ、少しでも企業の繁栄をめざす為の、小さな集まりとして発足致しました。

会頭様はじめ、商工会議所関係者各位の皆様方の、なみなみならぬ御支援と、御協力を戴きました事、紙面をおかりし、厚くお礼申し上げます。

業種の違いはありましても、現在五十数名の部員の皆様方と、当初のスローガンのもと、苦しみ、楽しみ、喜びを分かち合い、自らの研鑽を目指し、頑張っまいりました。

又、婦人経営者として、人生の先輩として、豊かな経験を兼ね備えられました梅谷部長を柱に、益々充実した婦人部を目指し、努力致したく存じております。

更に今後共、一層の部員の皆様方の、御指導、御鞭撻を賜ります様、心よりお願い申し上げますと共に、皆様方の御健康と、より一層の事業発展を祈念致しまして、「守門」発刊の喜びの御挨拶とさせていただきます。

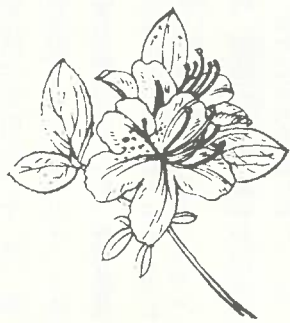
例会委員会委員長 南 野 多 美 子

「守門」発刊おめでとうございます。

思えば、数年前迄は自分の行動範囲が狭く、「井の中のかわず」でしたが、守口門真商工会議所の婦人部の一員に加えて頂き、経験豊かな会員の皆様と出会い、又数多くの講演、講習、研修にと出席参加させて頂き、知識や経験が少しは身になった事を感謝しております。

例会委員会は、日頃事業に忙しい、会員の皆様に短い時間により有意義な又、興味のある内容で多くの出席者を迎えられる講師の先生の選択に委員一同が頭を悩ませています。これからもより一層の内容充実を目指し「守門」と共に勉強していきたいと思っています。

この「守門」がいつまでも永く続き、会員の皆様の事業と健康が栄えます様、又婦人部の発展と自分自身の成長に期待しております。



事業委員会委員長 小西弘子

想えば婦人部発足から数えて早七年。年月の流れの速さを改めて感じる昨今でございます。

年ごとに山や谷にぶち当り商工会議所及び梅谷部長の足手まといに成り乍らやつの思いで迎えた七年でございます。

各委員会制が発足致しまして自分の器以上の大任をおおせつかり皆様のお知恵とお力をお借りし管外研修を推行出来ました。

年一回の全国大会。二回の管外研修と又他商工会議所婦人部との交流を通して会員相互の親睦を計り企業の発展に大いに役立つ様頑張って居ります。それもひと重に商工会議所並びに正副部長会員の皆様の御厚情と感謝致して居ります。今後事業部一同皆様の御希望に添う様一層の努力を重ねる所存でございます。「守門」の紙上をお借りして会員皆様の管外研修の御希望お知恵を賜ります様事業委員会一同心よりお願い申し上げます。と共に今後とも婦人部の発展と皆様の企業の御繁栄を切望してやみません。

末筆に成りましたが、

「企業も健康、自身も健康、参加する事は会社と自分の健康のバロメーターである」との梅谷部長のお言葉を噛みしめて精進する覚悟でございます。

広報委員会委員長 土井美代子

守口門真商工会議所婦人部が設立され、早や七年、光陰矢の如しと申しますが、当時、母を亡くし意気消沈の折、梅谷部長をはじめ、会員各位に出逢え、御懇情に支えられ感謝致しますと共に、縁と云うものを強く感じ、万感の思いで有ります。

近年、円高、日米経済摩擦、地価の高騰、間接税問題等々、厳しい情勢が続いておりますが、徐々に活力を取り戻し、先行き不安乍らも安定の兆しが見えてまいりました。弱小企業である当方に取りましても憂慮すべき日々では有りましたが、当婦人部各位の澁刺と日夜御活躍されるお姿に接し、励まされて、努力邁進致しております。

88年度は、アジアで二度目のソウルオリンピックが開催され、この記念すべき年度に、皆様方のお陰をもちまして、広報誌「守門」発行の運びとなりました。偏えに、皆様方の並々ならぬ御協力、御尽力の賜物と、深く感謝致し、厚く御礼を申し上げます。

心の糧となる、より良い「守門」を育むべく、今後共、一層の御指導、御厚情を賜ります様、お願い申し上げます。

明日に向い、婦人部結束の輪を持って、共に励まし合い、御発展と、事業の御繁栄を、心よりお祈り申し上げます。

婦人部のあゆみ

昭和56年度

- 7月15日 婦人部設立準備懇談会
- 10月26日 婦人部発会式
- 1月21日 新春懇談会
- 2月17日 「経験談を語る」 馬場 恵美子氏
- 3月17日 「経営よもやま話」 梅谷 千恵子氏

昭和57年度

- 4月21日 定時総会
- 6月9日 飛鳥藤原京地域見学
- 7月21日 7月例会
- 9月22日 「美しい婦人のことばと心」 柴谷 吉郎氏
- 10月25日 奈良商工会議所婦人部との交流懇談会
- 11月17日 関西電力との懇談会
- 1月19日 新春経済講演会及び懇談会
- 2月19日 国民金融公庫守口支店 支店長 内海 治也氏
- 観劇会 「市川猿之助公演」

昭和58年度

- 4月21日 定時総会
- 5月16日 三役会 「年間行事予定について」
- 6月8日 松下電器産業㈱ 歴史館・技術館見学
- 7月13日 体験談「私の選んだ道」 岩阪・川西両副部長・谷本相談役
- 8月25日 泉大津商工会議所婦人部との交流懇談会
- 9月21日 「青少年問題について」 門真警察署 平井警部補
- 10月12日 「㈱ダイエーのお客様対応について」 ㈱ダイエー近畿事業本部・大村総務部次長
- 10月24日 昭和58年度全国商工会議所婦人連合会総会（福山市）
- 11月17日 「ビデオで見る財務諸表の見方・生かし方」
- 1月18日 「女性経営者に対する税知識の普及」 門真税務署長 公文 幸雄氏
- 新年懇談会

3月21日 「交流分析」 経営コンサルタント 福島 瑛子氏
3月28日 泉大津商工会議所婦人部との交流懇談会

昭和59年度

4月25日 定時総会
5月17日 「商工会議所運営について」 栗山常務理事
6月7日 門真市史跡見学会 浅地専務理事
7月17日 青年部との合同例会 「21世紀の大阪」
（助大阪21世紀協会 理事長 中塚 昌胤氏）
9月20日 「カウセリング」 千原 葉子氏
10月18日 京都国際伝統工芸博覧学会
11月6日 昭和59年度全国商工会議所婦人会連合総会（横浜市）
11月8日
1月17日 「新年の経済と事業運営」
三和銀行経営相談所 永井主任調査役
新年懇談会
2月14日 歌舞伎観劇会
3月19日 経営指導員との懇談会

昭和60年度

4月16日 定時総会 「私の経営理念」 梅谷部長
5月14日 昭和60年度全国商工会議所婦人会連合会総会（水戸市）
5月15日
6月18日 ホワイトハウス見学
茶せん見学
7月23日 「おもしろ発明ゼミナール」
弁理士 森本 義弘氏
9月17日 「人間関係をよくする為の自分自身の追求」
福島 瑛子氏
10月15日 「テールマナー」 守口プリンスホテル
11月19日 「大阪商人の才覚と根性」
西岡彦（株）社長 西岡 義憲氏
1月21日 新年懇談会
2月13日 京扇工場見学
清水焼窯元見学
3月20日 大阪商工会議所婦人会との交流懇談会
3月28日 「よりよい人間関係の為に」 吉岡 輝乃氏

昭和61年度

4月15日 定時総会
5月20日 大阪コロナ（株）工場見学
6月17日 三洋電機（株）滋賀事業本部及び叶匠寿庵見学
7月15日 今後の婦人部運営について
7月28日 「円高に対応できる財務体質」
公認会計士 比佐 禎史氏
9月24日 大阪商工会議所婦人会との交流懇談会
10月22日 「秀吉の経済政策と戦国武将の企業心得」
旭堂 南陵氏

昭和62年度

4月21日 定時総会 「オーストラリアについて」
山岡金属工業（株） 社長 山岡 俊夫氏
5月19日 「経営者として管理職として」

6月16日 姫路商工会議所婦人クラブとの交流懇談会

（株）トータルマーケティング協会
管理部長 高山 イツヨ氏



姫路城にて

7月21日 「相手の心をとらえる話し方、聞き方」

福島 瑛子氏

9月22日 「最近の経営環境について」 梅谷部長

10月20日 昭和62年度全国商工会議所婦人会連合会総会（仙台市）

〓 21日

11月17日 「女性の生理」 藤川 ツヤ氏

1月19日 新年会懇談会

3月24日 和歌山商工会議所婦人会との交流懇談会

紀三井寺見学

昭和63年度

4月26日 定時総会

昭和63年度全国商工会議所婦人会連合会総会（京都市）

5月11日

〓 12日 「スライドで見る守口市史跡」 浅地専務理事

6月21日 「消費者の立場から見た良い製造・販売業者」

大野 正人氏

9月13日 姫路商工会議所婦人クラブとの交流懇談会

10月18日 バンドール見学

11月13日 宮津商工会議所 婦人部と梅谷部長との懇談会

（大阪厚生年金会館）

11月22日 「正確で分かり易い文章の書き方」 由里 洋子氏



全国商工会議所婦人会連合会総会（京都国際会館）にて

青少年期の思い出

守口門真商工会議所

常務理事 栗山 博文

私事で申し訳ないが、博文と云う名に青少年期は、随分と興味をもった。名もない片田舎の土建屋の親父が私に付けた名前である。申すまでもなく、明治新政府の伊藤博文にあやかっただけ、子に対する期待でもあったのだろう。

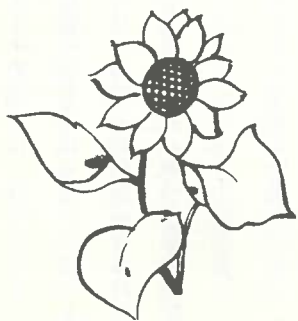
伊藤博文は、見るからに角張ったいかつい顔立ちで、異常なくらい強健な肉体で、風邪を引いても熱燭一本でケロリとなおしてしまっただと云う。ハルピン駅頭でピストルの狙撃を受けて、六十九才を一期として他界したけれども、五尺三寸、十五貫五百の身体で、その肉体は壯者をしのぐ強壮なものであった。食物は、なんでもよく食べたが、生魚やウニ、鍋物が大好物であったと云う。

特に異常なほど性欲が強く、次から次へと女性遍歴をくり返し、精力絶倫とは彼のための言葉と思えるほどに女性をもとめた。当時のことなので相手役は狭斜の巷の女性で、掃いて捨てるというので「ほうき」とあだなまでついてたいたそう。こうした激しい放蕩の中でも、伊藤博文は妻梅子を終始敬愛していたと云う。

馬関芸者の小梅を、明治維新後、武士階級がなくなると、いち早

く正妻を迎えるほど伊藤博文にとっての存在であった。若い頃の彼女は、文字通り忍苦のひとで、ただひたすら夫のためによく尽くした賢夫人であり、維新動乱の折、彼女は夫を探しにくる幕吏を追い返す度胸と、もっぱら針仕事をして生活費を賄ったくらいで、その内助の功が伊藤博文の公的生活を支えていたと云ってよかった。

細面で、きりりと引きしまった面立ちの梅子夫人は、英語の手紙を書いたくらいで、毛筆も達筆で芸者上がりと思えない教養の持主だったと云う。そんな彼女でも、夫の放蕩はやはり身を切られるほどつらかったろうが、耐えに耐え、愚痴は云わなかった。夫の暗殺死を知らされた時、何一つ取り乱すことなく、葬儀の采配をふるった後、ひっそりと、彼女は、自室に閉じこもって夫をしのんだと云う。明治宰相、伊藤博文の側面を知るにつけ、私の親父は、この様なことの承知のうえで、子の名前を付けたのだろうか。彼の妻梅子夫人に、青少年期は随分と憧れたものであった。



事業委員会副委員長 片桐節子

ゆたかな歴史を育んで、母なる淀川（守口門真商工会議所前）は、とうとうと守門川へと注いでおります。

希望に満ちた帆船婦人部号がここに進水して七年を経ました。只今流域の登録乗員（婦人部員）は四十八名。

船長は梅谷千恵子婦人部長。以来梅谷船長はご要職も多い中を、常に航行の指針に基づいて思慮深く奮闘下さり、まことにご苦勞様でございます。それにひきかえ乗員達は船長の全力安全操舵のよろしきを得まして、お蔭様で、結構気楽で有益な体験航行に参加を重ねております。

とは申すものの、帆船の定めで、こんにち迄には自然の試練は不可抗力として到来致しました。訓練不足も相乗して、些細ながら船体の損傷、船酔いなど々々……。けれ共、こんな程度は初歩とすれば、まあ当然の現象と申せましようが。

そんな経過を辿るかたわら、他船の先輩方の来され方を回を重ねて見聞させて頂きました。

そしてその都度感動。仲間達は手を取り合って真剣に道を求め始めたのです。

願望 創刊号によせて

広報委員会副委員長 高木洋子

一、例会には、極力参加しましょう。

一、婦人部員の見聞を広げましょう。

（小さな意見、思考等あれば提案しましょう）

一、心の和を広げましょう。

一、何かがある悦楽の集いにしましょう。

一、お互に益友になるよう努めましょう。



一ヶ月、又一ヶ月。それは地固まるの諺通りに、昨今ようやくにして船内の雰囲気（木？）に可憐な蕾みがちらほら上って参りました。気配はうららか。乗員達の間では、俄然、活相が呈せられたのは云ふまでもございませぬ。そして誰彼となく、やっと胸衿をひらいて語らへる段階に到りました。

一同は、この訪れ、随分と待ち望んだものでございます。

この端緒をひるがえれば、年に一度の体験航海（全国大会）折々の管外研修、表敬訪問などみな然りで今更乍ら血も若い婦人部号の、ひいては守口門真商工会議所のお力の賜物として、心から感謝致しております。

もう一つ。守門川の流域は世に誇る松下電器産業を始め、大小企業の傘下にあります。帆船が停泊する処、そこには必ず、独特の何か、何かがありそう。それは婦人の活力をかもす、えもいわれぬ岸辺の香りでございます。仲間達は恵まれた地域のこの香りこそ余さず甘受して、婦人部号は年と共にみがかれ、充実したいものでございます。そして母なる川

守口門真商工会議所の一層のお力添えを願わずにはいられません。守門川に浮ぶ純白の帆船婦人部号よ、あまた他船との交流も綾なして、なお尚白く高く高く誇りあれ。と念じます。

幹事・広報委員 近藤多美子

守口門真商工会議所婦人部が発足致しまして早七年を迎えました。発足式に出席させて頂きまして式が進行されるにつけ「随分場違いな所に座ってしまったなあ」との思いで、私自身出発致しました。自分自身がとても小さく見えて、たまらなく辛い思いで帰って参りました。その後、商工会議所より婦人部員として講習会の案内を頂く毎に、私は何の目的で婦人部に入部させて頂いたのかいつも心に正して、出席致しております。私にとりまして婦人部は、掛け替えの無い「勉強の場」で御座居ます。妻として、母として、商いを支える女性として、一度にそれぞれの勉強の出来場を頂きました事を幸いに思っております。こんな小さな私ですが、例会の度に温かい心の交う喜びを頂いております。私がくじけそうになった時も、この頂いた心に支えられて、今日まで歩んで参りました。発足より7年、会員皆様の心と心の掛け橋として「守門」の創刊の運びとなりました事は、本当に喜ばしい事と存じます。私も広報委員として加えて頂く事となりました。文字を書く事の不得手な私で御座居ますが勉強の場を頂いたと思つて一歩ずつ歩みたいと思っております。どうぞ御指導、御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

「団塊の時代の子」

広報委員 山岡真知子

わたしはいわゆる「団塊の時代」の生まれである。幼稚園へ入園する時も親は順番待ちをしたそう。小学校も特別教室の改造した所。中学校は一年十四クラスとなった為に、本校に収容しきれずに古い小学校を借りて、一年生だけが分校へ通学した。現在、分校といえど過疎地なのだが、金沢の中心地の事である。

先輩のいない一年生はまるで、小学校七年生で、実にあどけなく気がねもなくのびのびとしていた。先生方も「中学生らしくない」のを心配されていたが、生徒指導の方は助かったらしい。ペンキ塗りや教室の修理、一からのスタートで雑用は多かったけど楽しい時であった。二年生になって本校へ戻ったのだが、教室不足は相変わらず。中学時代は三年が同じ校舎で学ぶことはなかった。

高校、大学の受験期も競争競争、結婚時も「嫁一人に婿七人」といわれた時だった。その後二人の子供に恵まれたが、これも第二ベビーブームの時の子供達。長男の大学受験を控えて、二十年前の親の心配も分かる今日この頃。

「うちの家族は不運な時期に生まれたね」と娘は言うが、それも平和な世の中に生まれたから言える事なのかも知れない。

例会委員会副委員長 上月絢子

優良小売店の表彰を受けて

商いの如力実って この受賞

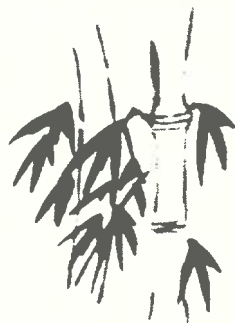
商工会議所にて

それぞれに 精出す顔は いきいきと

商いの道きて楽し 商工会議所

いらっしやい鬼も佛も みんな客

ニードレス 鏡に向いて、前後ましろ



あ と が き

初めて会報を発刊する運びとなり、毎月の例会で企業の発展と私達の心の和が出来たのではないのでしょうか。これを機会に過去をふり返り一層会員の皆様とのふれあい、あゆみの記録としてよりよく育ててほしいものと望んでおります。

発刊に際して商工会議所会頭様はじめ、関係者のご協力を載き厚く御礼申し上げます。

広報委員会一同

創刊号記念誌

守 門 SYUMON

昭和63年12月31日発行

編集者 守口門真商工会議所婦人部

広報委員会

発行者 守口門真商工会議所婦人部

部長 梅谷千恵子

電話 06-909-3301

発行所 有限会社キタ印刷所

守口市大久保町